

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(231)

急成長する市場

世界の医薬品市場の成長が著しい。1992年は約1500億ドルであった市場が、2021年は約1.1兆ドルとなり、28年には1.7兆ドルとなる見込みがある。現在の市場の内訳は、主に従来型製品である低分子医薬と抗体医薬で構成されている。28年に向けて、これら市場は着実な成長が見込まれるが、新しい種類の医薬品がさらなる市場成長の力を握る。

目指した研究開発が世界中で続けられてきた。例えば、核酸医薬（DNAなどの核酸分子から作られる医薬品）や、遺伝子治療（遺伝子そのものや遺伝子を組み換えた治療用細胞を投与する治療法）、細胞治療（細胞や組織を移植する治療法）が登壇した。それらは極めて高い治療効果を示したため注目を集めた。例えは、核酸医薬（DNAなどの核酸分子から作られる医薬品）や、遺伝子治療（遺伝子そのものや遺伝子を組み換えた治療用細胞を投与する治療法）、細胞治療（細胞や組織を移植する治療法）が登壇した。それらは極めて高い治療効果を示したため注目を集めた。例えは、核酸医薬（DNAなどの核酸分子から作られる医薬品）や、遺伝子治療（遺伝子そのものや遺伝子を組み換えた治療用細胞を投与する治療法）、細胞治療（細胞や組織を移植する治療法）が登壇した。それらは極めて高い治療効果を示したため注目を集めた。

日本の戦略

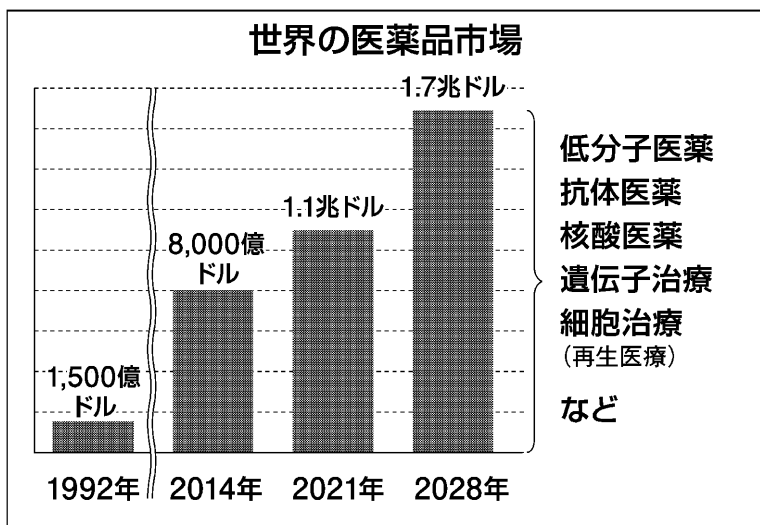
わが国では細胞治療（再生医療）の研究開発が特に活発だが、現時点では大きな市場形成には至っていない。国際的に至るべき市場形成には至っていない。国際的に至るべき市場形成には至っていない。国際的に至るべき市場形成には至っていない。

世界の医薬品 新薬が市場成長のカギ



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー（ライフサイエンス・臨床医学ユニット） 辻 貞博

東京大学農学部卒。ライフサイエンスおよびメディカル関連の基礎研究（生命科学、生命工学、疾患科学）、医療技術開発（医薬品、再生医療、細胞医療、遺伝子治療、モタリティー全般）、医療データ、研究環境整備などさまざまなテーマを対象に調査・提言を実施。



では欧米の後塵を拝す。今後形成が見込まれる医薬品の新たな市場でわが国が存在感を示していくためには、トアアップへの資金面の支援制度も着々と整備されている。しかし、わが国のアカデミアでは、優れた基礎研究品へと作り込むために、資金面の支援だけでは不十分である。優れたアカデミアを有する研究者に対して、さまざまな最先端の創薬技術や医薬品製造技術を有するアカデミアあるいは企業による支援、豊富な開発経験を有する専門人材による伴走型支援なども必要だ。それら支援の枠組みは、低分子医薬などの従来型の医薬品では充実しているが、核酸医薬などの新しい種類の医薬品では未整備である。これら一連の仕組みを新たに構築することで、わが国の画期的な医薬品の創出が加速するであろう。

（金曜日に掲載）